

「モノづくりは、人づくり」



長谷虎CJカーペット「クレーター」(長谷虎紡績(株))

例えば、カメラの被写体を自在にカーペットに表現する。今では容易な事が想像すら出来なかった1980年、長谷虎紡績は世界で3台目というコンピュータ制御によるジェットプリント(CJ)マシンを日本で初めて導入。従来の織物と異なりデジタルで柄を作り、ホテル向けに生産を開始した。当初は花や幾何など織物と変わらぬ柄に留まっていたが、1989年に当時の新進気鋭建築家3名(伊東豊雄氏、鈴木エドワード氏、北川原温氏)とのコラボレーションにより、CJマシンのポテンシャルを最大限に引き出すデザイン発想を得て、ジェットプリントの新たな可能性を提案する展示会を開催した。写真は同展示会で発表したカーペットのひとつで、全国繊維技術展「通産大臣賞」を受賞した「クレーター」。月面写真をジェットプリントで表現したもので、インテリアにおける床演出の自由度を広げる原点となった。【長谷虎紡績: 明治20年、初代長谷虎吉により長谷製糸工場として創業】

【内 容】

- 1 2015年度QCサークル事例発表大会
- 2 ASUIISHI事業最前線
- 3 協会だより(業務改善事例発表大会、品質コラム)



6月30日『2015年度中部品質管理大会』

—QCサークル事例発表大会—実施報告・西堀賞発表』

【大会概要】

去る6月30日に大府市勤労文化会館にて開催させていただきました標記大会には、400名を超えるご参加をいただきました。当日は講演者が昼前に発生した東海道新幹線史上初めての事故で来場できなくなり、急きょではございますが、当協会会長の佐々木が講話をさせていただくなど、大きなハプニングもありましたが、盛会のうちに終了できましたことを心より感謝申し上げます。

この大会の中心は、なんといっても日頃の改善の発表です。当協会創立以来、毎年、継続開催できているのは、この地区に、この地道で前向きな改善の風土と人材が途絶えることなく継続している証拠であります。感謝とともに、改めまして品質管理普及組織としての責任を感じております。

今年も厳選された20事例にご発表をいただき、7事例に西堀賞を授与させていただきました。

西堀賞は、中部品質管理協会創設時の功労者であり、日本の品質管理構築に尽力された故・西堀栄三郎博士にちなみ、本大会の最初から継続しております。西堀博士といえば、品質管理分野での功績のみならず、初代南極越冬隊長であり、登山家としても著名です。博士にちなんだこの賞も、その信念とするところである「異質の協力」「独創性」「リーダーシップ」の面を重視しています。

今年、右表のように7事例が西堀賞を受賞されました。今年の特徴として、特に目立ったのは女性視点の活用、そして多様性でしょうか。

アイシン精機(株)の事例は男性と女性でチームを分けて、男女の違いをしっかりとデータで見極めた上で対策実行・目標達成、女性のやる気を引出しました。日本特殊陶業(株)の事例では、女性ならではの視点でアピールし改善につなげています。愛知製鋼(株)の事例は、バラバラだった2つのチームが1つになりお客様からの高い評価を得たことが紹介され、さらにトヨタ自動車(株)の事例では、テーマ解決活動を通

じてベテラン・中堅・若手のコミュニケーション向上・協力で成果がでたことが取り上げられていました。

どの受賞事例も、問題解決そのものを徹底して実行・実践されていることとともに、今の時代背景、職場環境に柔軟に対応し、むしろそれを生かすことに知恵を絞り、参画メンバー皆が生き生きと働く環境づくりに取り組んでいることが垣間見えました。来年もまた、皆様の日々の活動をご発表いただけることを楽しみにしております。

2015年度西堀賞受賞

受賞、おめでとうございます！

(*敬称略)

会社名・受賞者名	事例テーマ
アイシン精機(株) 清水 悟	みんなが笑顔で生産できるラインづくり～女性目線で改善した稼働率向上～
日本特殊陶業(株) 足立 真由子	宣伝物棚卸における作業時間の短縮～棚卸のプロになろう!!～
愛知製鋼(株) 梶井 政史	U字キズの犯人を逮捕せよ! 自工程保証、お客様第一主義でU字キズ低減
(株)ジェイテクト 河瀬 ウィリアム	ITTC刃具交換後寸法不良根絶～寸法精度一発出しへの挑戦～
トヨタ自動車(株) 松田 翔平	エンジン自動運転時の異常停止撲滅へのチャレンジ
小島プレス工業(株) 奥武 祐臣	シート接着工程 シート異常撲滅活動
トヨタ車体(株) 小笠原 国男	故障“0”を目指した保全力向上の歩み～QCサークル支援活動を通じた人材育成と職場活性化～



中部品質管理協会が協力する医療分野の質向上事業、10月始動！

～準備最前線レポート～

名古屋大学医学部附属病院が、「ASUISHI」と銘をうち、「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム」を10月から実施する。

本プロジェクトは名古屋大学医学部附属病院が中心となり、この名古屋ベースで医療界と産業界、特に同じ地元のTOYOTAと連携し、質管理の視点を併せ持ち臨床現場の課題を粘り強く解決する明日の医療に不可欠な医師の育成をめざすというもの。昨秋、文部科学省の「課題解決型高度医療人材育成プログラム」に採択されて以来、中部品質管理協会も、中部に根差す品質管理普及団体として、同プロジェクトの実行運営委員として協力している。

名古屋大学病院は「医療の質・安全管理部」という専門部署をおき、専任医師を要して、国内でも先行して「医療安全・質向上」に取り組んでいる。そこにTOYOTAならではの「カイゼン」「トヨタの問題解決」といった管理手法、その思想と運用のしくみをいかに翻訳導入するか、その始動まであと2ヶ月余りの最前線をお伝えする。



(上写真) 担当医師の方々と幾度も意見交換

プロジェクトが対象にするのは、将来、自組織経営を担う「医師」。臨床を熟知し、現場の多様な課題を粘り強く解決する能力にたけ、質管理の視点やスキルを併せ持つ医師の養成をめざす。履修分野は「患者安全」「感染制御」「質管理」と3つからなるが、当方が協力する質管理研修は全必須科目120時間のうち54時間程と重点が置かれている。

実施内容はTOYOTAの現場見学と意見交換等体験型から、質マネジメント概論、統計的手法、質管理手法、そしてその実践として問題解決のテーマ指導まで幅広い。受講される医師ご自身や所属組織の業務課題を取り上げ、半年にわたってトヨタの問題解決プロセスを踏まえながら、それぞれが対策を図るまで実施いただく予定。このテーマ指導のプロセスで、製造業と医療分野における質管理・経営のあり方の違いや、翻訳の有効な形を試行錯誤しつつも見出せるのではと、関係者一同期待しつつ、準備を進めている。来年3月に第1期生の皆様が無事全科目を履修終了できますように。(文責:細見)

製造業から医療現場に伝えたいこと

医療と製造業で安全や質管理で議論を重ねる中で、相互に数々の相違点を見出しつつも、以下の価値を共有することからスタートした。

1. 患者(お客様)第一の医療を実践する
2. 業務のムダをとる
3. プロセスで造り込む
4. 不良を後工程に回さない

9月27日キックオフシンポジウム開催！ご参加下さい☆

「明日の医療の質向上につながるヒトづくり」として、キックオフシンポジウム&講演を予定。

一般聴講可能、無料です。 <http://www.asuishi.med.nagoya-u.ac.jp/wp/news/103/>

日時:9月27日(日)10時~13時 会場:名古屋大学医学部附属病院中央診療棟3階講堂

協会だより

9月29日 業務改善事例発表大会

(開催時間 10:00~16:45)

場所：ウインクあいち小ホール

- 1) 事例発表 6件
- 2) 事例講演 楽天(株)執行役員兼楽天技術研究所所長 森 正弥氏
- 3) 特別講演 独立行政法人統計センター理事長 椿 広計氏

furuyaの品質 SAIKOU

“大学と品質管理”

大学における品質管理教育の実態はどうなっているのだろうか。よく分からないままに、3年前からある大学で、品質管理に関するパートを3回(1回90分)に分けて講義を行っている。対象は、経済学部の2・3年生約100名である。本来なら、彼らが入学前にどの程度の知識を身に付けてきたのかを調査した上で対応すべきところだが、特に考慮することもなく教壇に立った。

一方、企業では新入社員に対して、QC教育を初歩から行っている。問題解決の基本やQC7つ道具などが初級編と言える。学校では品質管理に関する教育が体系的に行われていないという前提に立っている。

こうした中、平成23年度から導入された、新学習指導要領では、「生きる力」をはぐくむことが理念としてうたわれた。「いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力をはぐくむこと」という方向を示したのだ。日本品質管理学会としても、TQE(Total Quality Education)特別委員会を設け、重点的に支援活動を行っている。この内容こそ、品質管理そのものであり、これからの日本の成長に欠かせない能力なのである。新しい指導要領で学習した子供たちが、やがて社会に巣立っていく。日本の将来に明るさが灯ることを願いたい。

さて、冒頭の学生諸君だが、「最近八百屋の親爺に元気がない。どうしたら元気になれるのか、考察せよ。」というテーマでレポートに取り組んでもらった。若い人たちの柔軟な思考、発想に期待しつつも、大学における品質管理教育の道程はまだまだ長く険しい。

[編集後記] 東海道新幹線50年の歴史の中で初めて車両内で火災事故発生。亡くなられた方には心からご冥福を申し上げます。終日電車運行も甚大な被害、余波で当方の大会の特別講演も中止になるという経験をしました。列車に限らず、最近の大きな事故は、人に起因するものが多く、品質管理の領域の複雑さと多様さを如実に感じます。同時に、リスク管理のあり方、想定外のことが起きた際の最終責任を取る心構えや対処を常にイメージしていることも大事と、今回の事件で心の底から感じた次第。(細)

発行元: 中部品質管理協会 TEL:(052)581-9841 FAX(052)565-1205 <http://www.cjqca.com>

〒450-0001 名古屋市 中村区 那古野 1丁目 47-1 名古屋国際センタービル11階